

特定非営利活動法人 防災千葉

千葉市中央区本町 1-6-24 (渡辺コーポ 102号)

E-mail [bosai@bosai-tiba.jp](mailto:bosai@bosai-tiba.jp)

Homepage <http://www.bosai-tiba.jp>

Fax 043-301-3820

### ■ 令和2年度通常総会を開催

特定非営利活動法人防災千葉は、令和2年7月17日プラザ菜の花において、令和2年度通常総会を開催しました。

今年度の総会は、新型コロナウイルスの感染症拡大を防止するため可能な限り書面による参加をお願いするなどして少人数での開催といたしました。

このような中、総会には県土整備部、土木事務所所長会など関連する県の組織を代表して、県土整備部長の河南正幸 様、千葉土木事務所長の根本嘉生 様、県建設技術センター理事長の神作秀雄 様に来賓として御出席をいただきました。



増岡理事長

開催に当たり、まず増岡理事長から挨拶がありました。

その中で、「昨年千葉県で発生した一連の自然災害に対する公共土木施設の迅速な復旧・復興が、県土整備部の皆様のご苦勞により、今現在、鋭意進められていることと思います。当NPOとしても災害箇所の情報収集や被災状況の調査など、いくつかの土木事務所管内でお手伝いさせていただいたところです。災害時の業務協力がより円滑に、実効的に行われるためには施設管理者である県と私共NPOが双方でその地域の災害リスクをよく把握し、情報を共有しておくことが肝要と思われます。各土木事務所との意見交換会の開催などを通じ、協働・連携した実のある活動になるよう努めてまいりますので、県の皆様もご協力をよろしくお願いします。また、22年目を迎えた当NPOの会員数は現在243人と成長してまいりましたが、高齢化による実働会員数の減少という現実も否めないところであります。これから5年10年と息の

長い活動を進めていくために、引き続き会員の皆様のご意見を聞きながら高齢会員でも参加できる企画等を含め、議論し、実行して行きたいと思っております。今後ともNPO防災千葉にご支援ご協力をお願いします。」との話がありました。

来賓を代表し県土整備部長の河南正幸様からは、「昨年の災害の際には、NPO防災千葉の皆様にも豊富な経験を活かしていただいて、災害箇所の現地確認、そして災害メカニズムや復旧工法について事務所の職員にアドバイス、ご意見をいただき、本当に支えていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともしっかりとわれわれと連携していただいて、県の現場力を支えていただければと思います。

千葉県では現在、若い土木職員が多い状況となっておりますが、我々現役世代は若い人



新型コロナウイルス対策でソーシャルディスタンスを取りながら開催した令和2年度総会

たちをどう育てるかということに、苦勞しながら取り組んでいるところです。そういう中で、皆さんの経験、知識等を生かしたこれまでの活動が、我々の活動の支えとなりますし、そこから若い人にぜひとも学んでほしいと思っています。今後とも、県土づくりを進め、ともに地域を守るという中で、ご尽力を賜りますようお願いいたします。」とのお話がありました。

議事は令和元年度の事業報告、収支決算及び令和2年度の事業計画（案）、予算（案）の4議案がすべて承認されました。

## ■ 令和元年度事業報告（R1.7.1～R2.6.30）

令和2年度通常総会で承認された令和元年度の「事業報告」は下記の通りです。

（令和2年度の「事業予定」は4ページに記載しています。）

通常総会	令和元年7月17日 プラザ菜の花にて開催。 出席者231名（内訳本人出席123名、表決委任108名）。 平成30年度事業報告及び収支決算報告、令和元年度事業計画（案）、収支予算（案）及び役員の選任（案）が承認された。
役員会・理事会・事務局会議	役員会2回、理事会2回、事務局会議5回開催した。
あるくパトロール	令和元年8月1日～12月12日 県管理の道路を対象に県職員と協働で歩くパトロールを実施した。14土木事務所で実施され、当 NPO から延べ56名が参加した。
会報の発行	会報（34～35号）を会員および県の関係機関、外郭団体等に配布した。 34号（令和元年9月10日発行）800部、35号（令和2年3月1日発行）700部。
防災訓練	① 令和元年8月30日 県土整備部震災訓練に参加。（15土木事務所管内） 県と締結している「災害時における業務協力に関する協定」に基づき、県管理施設に係る情報伝達訓練等に当 NPO から 延べ66名参加した。 ② 令和元年9月1日 第40回九都県市合同防災訓練における防災フェアに参加。 会場の船橋市の高瀬町運動広場で、出前授業「語り継ぐ災害 地震津波災害」に関するパネル展示及び資料配布を行った。
出前事業	「語り継ぐ災害 地震 津波災害」を旭市など2市1町で実施。 （実施年月日・場所・対象学年・参加児童数は下記の通り）。 ・ 令和元年 10月17日 旭市立飯岡小学校 1～6年生 208名 ・ 令和元年 10月28日 横芝光町立上堺小学校 4～6年生 51名 ・ 令和元年 11月22日 山武市立緑海小学校 4～6年生 76名 ・ 令和元年 12月19日 山武市立鳴浜小学校 4～6年生 70名
防災関係建設技術研修会	令和2年1月21日「プラザ菜の花」にて開催。 全国治水砂防協会千葉県支部、千葉県河川協会、千葉県道路協会及びNPO 防災千葉の4団体による共催。出席者 132名（うち当 NPO 73名） 講演いただいた演題・講師の方々は下記のとおり。 ①「我が国の国土と河川事業について」 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課 課長補佐 奥中智行 様 ②「被災から半世紀 45災を振り返って ～小櫃川の記録から見る水害への備え～」 ちば河川交流会 大野二三男 様、宮寄義昭 様
令和2年度砂防ボランティア全国のつどい	令和2年6月に福岡市において開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止された。
土砂災害危険箇所点検	令和2年6月に県、市町村の防災担当者等と協働して、急傾斜危険箇所（870箇所）の点検を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期中。
急傾斜地崩壊危険区域・防止施設点検業務	令和元年12月～令和2年3月 急傾斜地崩壊危険区域・防止施設点検業務を受託し、5土木事務所で実施した。（点検箇所 92箇所）
「関東ふれあいの道」のパトロール	令和2年3月10日「九十九里の砂をふみしめて歩く道」（一宮町）において実施予定であったが、天候不良により中止した。
他団体との協働	防災関係建設技術研修会において「ちば河川交流会」の講師が「被災から半世紀 45災を振り返って～小櫃川の記録から見る水害への備え～」について講演。



## ■事業紹介（出前授業：語り継ぐ災害「地震津波災害」）

九十九里外房地域は過去に大きな地震津波災害を受けてきた地域です。

そこでこれまでの地震津波災害、東日本大震災で津波にあわれた方の体験談、そして強い地震の揺れがあったらどのように対応するか、について子供たちにわかりやすく説明し伝えることにより防災対策への関心を育み手助けできるよう、主に小学校高学年生を対象に出前授業を実施しています。

昨年10月には地域が津波で被災した飯岡小学校で開催し、その様子が新聞等で報道されました。（詳細は会報35号参照）

<平成25年度からの開催状況>

年度*	開催市町村及び対象	参加者数
平成25年度	南房総市（南小学校（4校合同）、健田小学校（5校合同））	274名
平成26年度	南房総市（三芳小学校（3校合同）、南三原小学校、三芳地区防災研修会） 館山市（船形小学校（2校合同）、北条小学校（3校合同）、館山小学校（5校合同）） 鴨川市（鴨川小学校）	959名
平成27年度	南房総市（三芳小学校）、鴨川市（小湊小学校）、勝浦市（勝浦小学校） 長南町（長南小学校）、旭市（旭市シニアカレッジ）	459名
平成28年度	御宿町（御宿小学校）、いすみ市（岬中学校）、一宮市（一宮小学校） 白子町（南白亀小学校）	865名
平成29年度	長生村（高根小学校、一松小学校）、白子町（関小学校、白潟小学校） 九十九里町（豊海小学校）、山武市（蓮沼小学校）	879名
平成30年度	九十九里町（九十九里小学校、片貝小学校）、横芝光町（白浜小学校） 匝瑳市（野栄中学校）	588名
令和元年度	横芝光町（上堺小学校）、山武市（縁海小学校、鳴浜小学校、大正寺） 旭市（飯岡小学校）	539名

\*（NPO 防災千葉の事業年度は7月から翌年6月まで）

## ■事業紹介（「ちば河川交流会」との協働）

今から半世紀前、昭和45年7月1日の関東地方南部の大雨は、房総丘陵を水源とする小櫃川をはじめ養老川、夷隅川、小糸川、湊川、一宮川などの河川の氾濫や各所で生じたがけ崩れ等により死傷者53名、浸水面積約1万haに及び10市町村に災害救助法が適用されるなど、本県にとって戦後最大の被害をもたらしました。

この災害を「45災」といいます。今年が45年から50年を迎えます。この水害の惨禍を風化させないよう、これまで集積されてきた資料や文献を収集・整理すると共に当時の水害を体験された方々や復旧事業に携わった当会員の先輩方からお話を伺うなど、「ちば河川交流会」と協働して記録に遺す活動を進めています。本年の1月に開催した「防災関係建設技術研修会」では、「45災を振り返って」というテーマで、宮寄会員及び大野会員から講演していただきました。

また、協働事業の成果として「被災から半世紀 45 災を振り返って ～記録から見る小櫃川の災害～」と題する小冊子を編纂したところです。（右参照）

今後とも、過去の教訓に学び次の災害に備えるためにも、本県の防災行政の協力をいただきながら、「45災」に関する活動成果を広くPRしていきたいと思っています。

\*「ちば河川交流会」は、千葉県にかかわりの深い日本河川協会の個人会員をメンバーとして、川の文化の発展に貢献することを目的に、平成11年に設立された会で、多数の当NPOの会員が活動しています。



## ■ NPO防災千葉の組織（令和2年7月17日現在）

役員				相談役	
理 事 長	増岡 洋一	理 事	児安 哲司	<div>小林 宗平 市川 慎一 佐藤 正芳</div>	
副理事長	鶴岡 春美 吉田 満		大野 二三男 萩原 茂雄		
		監 事	安田 武夫 山村 繁喜		
事務局員					
事務局長		渡邊 芳敏	事務局次長		土屋 謙
	総務部	企画部	事業部	広報部	会計
部長	平林 利夫	鯉渕 彰	露寄 茂	並木 博史	大湊 一文
部員	木邊 實	大野 二三男	田中 俊二	片岡 嘉雅	小池 敏夫
	萩原 茂雄	塩屋 龍一郎	前田 善信	中山 拓也	松田 善典
	御園生 孝	宝地 兼次	秋葉 利信	小高 千弘	
	高橋 洋一	高谷 幸雄	湯田 尚登	渡辺 幸男	
	吉田 良治	鈴木 邦秀	滝浪 善裕	石橋 喜久雄	
	畠山 正夫	柴田 利雄	村楯 紀雄		
地域幹事・副地域幹事					
地域名	地域幹事	副地域幹事	地域名	地域幹事	副地域幹事
千葉	松田 善典	田村 規道	海匝	大湊 一文	越川 博昭
葛南	湯田 尚登	滝浪 善裕	山武	佐藤 信孝	勝俣 稔
東葛飾	山村 繁喜	石井 直樹	長生	高谷 幸雄	秋葉 利信
柏	高橋 龍悦	伊藤 洋二	夷隅	高橋 洋一	中村 正美
印旛	穴戸 勝美	山野 勉	安房	鶴山 克己	平林 利夫
成田	前田 善信	松木 久男	君津	鶴岡 正	村岡 春雄
香取	秋山 文男	木邊 實	市原	伊東 正晃	高橋 茂樹
銚子	木内 和男	橋本 政幸			

## ■ 令和2年度 事業計画

1. あるくパトロールの実施（8月～）（県管理の道路）
2. 会報の発行（第36号（8月）700部、37号（令和3年2月）700部）
3. 防災訓練 県土整備部震災対策訓練に参加し、情報伝達訓練等を実施予定。（令和2年9月1日）
4. 出前授業 「語り継ぐ災害地震津波災害」  
旭市立三川小学校、矢指小学校、富浦小学校での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため次年度に延期の見込み。
5. 「関東ふれあいの道」のパトロール（令和3年2月～3月）
6. 防災関係建設技術研修会の開催（令和3年1月頃 プラザ菜の花）
7. 砂防ボランティア全国のつどいへの参加（令和3年6月）
8. 土砂災害危険箇所点検（令和2年8～9月、令和3年6月）
9. 急傾斜地崩壊危険区域・防止施設点検（業務の発注状況に応じ実施）
10. 水防訓練
  - ・黒部川運動公園（香取土木主催）：調整中
  - ・いすみ市文化会館（夷隅土木主催）：規模縮小のためNPO 防災千葉不参加
11. 広報活動 当法人の目的である、自然災害防止および土木施設等の保全にかかわる活動の広報に努める。

### ■ 会員の動向

令和2年度入会者数  
5名  
令和2年度会員数  
（7月1日現在）  
243名  
賛助会員  
全国治水砂防協会  
千葉県支部